

## 2025 年度食品環境研究センターの事業内容

食品環境研究センター長 若林敬二

2026/03/31

### 【構成メンバー】

センター長：若林敬二

副センター長：三浦進司

センター研究員：雨谷敬史、市川陽子、熊澤茂則、原 清敬、三好規之、  
伊藤圭祐、藁科 力

センター客員研究員：梅垣敬三、津金昌一郎

センター客員共同研究員：糠谷東雄、田中牧子、辻 修一、落合雅子、  
鈴木敏博

センター職員：山崎由起

## 2025年度食品環境研究センターの事業内容

食品環境研究センター長 若林 敬二

当センターは、地域における健康と福祉の向上、および地域産業の推進を目指して、「食と健康」や「環境と健康」に関連した研究とともに地域の人達への教育・啓発活動などを行っている。2025年度に実施した主要な事業を以下に示す。尚、教育・啓発活動については、食品環境研究センターが中心になり行った活動および各研究室又はグループが中心になり行った活動を含めた食品栄養環境科学研究所および食品栄養科学部全体の活動として掲載した。

### ■ 研究活動

#### 1. 地域における健康に資する食品および環境に関する情報提供、及び教育、啓発活動

静岡県特産の農水産物、加工食品等の機能性についてシステマティックレビューを行い、それらの成果を整理して消費者庁に届出を行い、地域の食品産業の活性化に寄与した。尚、茶カテキン、DHA・EPA、GABA、イヌリン、スルフォラファングルコシノレート、ルテイン、プラズマローゲン、エルゴチオネイン、及び没食子酸等を含む60数件の機能性表示食品について既に消費者庁のHPに公開されている。更に、これら機能性表示食品の資料は、健康食イノベーション推進事業の支援のもとで作成した機能性食品素材データベースにまとめられ、本学が中心となり研究を進めている、その他の食品の機能性素材情報と共に本学健康食イノベーション推進事業HP上に公開されている。又、公開講座、講演会等を行い、地域における健康福祉の向上に資する教育・啓発活動を実施した。

#### 2. 環境中のがんの発生要因及び予防要因の探索とその応用

環境中には、多くの未知の変異原・がん原物質が存在している。がん予防法を確立する上には、これらの変異原・がん原物質の同定が必要である。そこで、腸内細菌が生産する新規大腸がんリスク要因、コリバクチンの遺伝毒性、発がん性及びそれらの抑制要因等についてヒトゲノム解析及びコリバクチン産生菌に対する抗体等を用いて研究を進めている。又、アスピリンの大腸がん抑制機序及び修飾要因について解析を行っている。

#### 3. ニシキギ科植物の含有成分検索

中国、台湾に自生するニシキギ科植物ライコウトウ(雷公籐:ホルトカズラ *Tripterygium wilfordii*)は伝統的な漢方薬として関節リウマチ等の治療に使用されている。静岡市内で採集した同科植物マサキ(*Euonymus japonicus*)の未成熟な実(乾燥重量 2.9 kg)の含有成分を MeOH により熱時抽出し、得られたエキスのうち脂溶性画分について成分検索を行ったところ、30 種余りの  $\beta$ -dihydroagarofuran 型のセスキテルペンポリエステルが得られ、その構造を明らかにし *T. wilfordii* と成分の類似性が示された。

2025 年度 発表論文 2 報、学会発表 7 回

## ■ 講演・講習会

- 1) 若林敬二：「がん検診による早期発見の必要性」、伊東市・静岡県対がん協会、がん予防講演会（伊東市）、2025年9月23日
- 2) 若林敬二：「静岡県の機能性表示食品の開発支援とその実績」、第26回フードサイエンスフォーラム（焼津市）、2025年9月11日
- 3) 若林敬二：「機能性表示食品のシステムティックレビュー（SR）について」、公益財団法人静岡県産業振興財団、令和7年度未来型食品創出教育プログラム（総合食品学講座）（静岡市）、2025年7月31日
- 4) 若林敬二：「機能性表示食品の開発支援とその実績」、静岡県バイオテクノロジー研究会（静岡市）、2025年6月25日
- 5) 若林敬二：「もっと知って欲しいがんのこと ～ 早期発見と受診率の向上 ～」、熱海市・静岡県対がん協会、がん予防講演会（熱海市）、2025年1月22日

## ■ 教育・啓発活動

### 各研究室又はグループが中心になり行った活動

- 1) 夏休み親子環境教室2025  
日時：2025年8月9日（土）9:30～12:00  
会場：静岡県立大学食品栄養科学部2号棟1階大講義室  
担当：雨谷敬史、野呂和嗣  
内容：テーマは「活性炭を使った水の浄化」でした。近年、水と環境のつながりに関する話題が社会的に広がりを見せています。この教室では、このようなつながりを「見て、触って、知る」チャンスということで、小学生と楽しく勉強する機会となりました。活性炭の“黒いチカラ”で、世界を少しだけキレイにする、環境保全にもつながる知識を得ることができました。また、SDGsにもぴったりの学びの時間になりました。申込みは5組9名でしたが、少人数でしっかり安全に行うことができました。
- 2) 富士市民大学前期ミニカレッジ健康講座：「健康的な食環境を創る・支える～『健康的な食事・食環境（スマートミール）』が目指すもの～」  
日時：2025年6月16日（月）  
会場：富士市教育プラザ1階 大講義室  
担当：市川陽子  
内容：富士市教育委員会が富士市・富士宮市民向けに開催した健康講座 「“わかる”と“かわる”食が与える健康への影響」（全3回）の1回を担当し、健康的で栄養バランスの良い食事を摂るための「食環境づくり」の重要性について解説した。50～70代を中心に68名が参加した。
- 3) 静岡科学館る・く・る主催 る・く・る×ラボ：「ジビエってなに？学んで食べて、野生動物との共存について考えよう！」  
日時：2025年9月28日（日）

会場：静岡県立大学食品栄養科学部フードマネジメント研究室，5112室，5117室，官能検査室

担当：市川陽子，フードマネジメント研究室

内容：野生鳥獣による食害の現状や課題、食資源として活用する意義についてミニ講義を行い、味覚クイズ、ジビエ肉の物性測定、ボーンブロスの官能評価などの体験学習、開発商品の試食を実施した。当日は小学生（高学年）9名、中学生3名、保護者11名の計23名が参加し、くくり毘やシカの角・骨などの展示資料にも触れながら、内容の理解を深めた。

4) 静岡市保健所主催 令和7年度第2回栄養講習会：「給食施設の災害対応と備蓄品の活用」

日時：2026年2月27日（金）

会場：城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟（ハイブリッド）

担当：市川陽子

内容：市内給食施設の給食従事者（栄養士等）を対象に、被災を想定した備蓄内容と選定法、備蓄を活用した献立計画・レシピ、食事面からみたBCP（事業継続計画）の在り方等について講演を行い、参加者によるグループワーク、意見交換会のファシリテーターを務めた。会場参加60名、オンライン受講100施設（いずれも定員となり締切り）

5) 日時：2025年11月28日（金）13:00～16:00

会場：静岡県工業技術研究所

担当：伊藤圭祐

内容：静岡県工業技術研究所の職員資質を向上させるためのセミナーとして、おいしさのデジタル解析技術に関する最新の知見を講義した。

6) 日時：2025年10月17日（金）11:30～12:30

会場：東京ビックサイト

担当：伊藤圭祐

内容：食品開発2025年記念セミナーとして、おいしさを感じ取る分子レベルの仕組みと風味のデジタル解析技術に関する最新の知見を講義した。

7) 日時：2025年9月27日（土）13:00～16:00

会場：熊本県立大学

担当：伊藤圭祐

内容：熊本県栄養士会研究教育事業部の令和7年度第2回研修会として、おいしさを感じ取る分子レベルの仕組みと風味のデジタル解析技術に関する最新の知見を講義した。

8) 日時：2025年9月17日（水）13:00～16:00

会場：沼津工業技術支援センター

担当：伊藤圭祐

内容：沼津工業技術支援センターの職員の資質向上のためのセミナーとして、おいしさのデジタル解析技術に関する最新の知見を講義した。

9) 日時：2025年8月16日（土）13:00～14:00

会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ

担当：伊藤圭祐

内容：日本技術士会静岡県支部主催のセミナーとして、おいしさを感じ取る分子レベルの仕組みと風味のデジタル解析技術に関する最新の知見を講義した。

10) 日時：2025年7月10日（木）13:00～14:00

会場：静岡県水産・海洋技術研究所

担当：伊藤圭祐

内容：静岡県水産・海洋技術研究所主催のセミナーとして、味・匂いの分子感知メカニズムを応用したおいしさのデジタル解析技術に関する最新の知見を講義した。

11) 日時：2025年6月10日（火）13:00～14:00

会場：東京ビックサイト

担当：伊藤圭祐

内容：FOOMA JAPAN 2025農業施設学会シンポジウム（ウェルビーイングを実現する食テクノロジーの進化）のセミナーとして、味・匂いの分子感知メカニズムを応用したフレーバーデジタル化技術に関する最新の知見を講義した。

## ■ 事業報告会

食品環境研究センター2025年度事業報告会（オンライン会議）

日時：2026年3月13日（金） 15:00～17:00

参加者：若林敬二、三浦進司、雨谷敬史、市川陽子、伊藤圭祐、熊澤茂則、三好規之、原清敬、藁科 力、落合雅子、梅垣敬三（静岡県立大学客員教授）、牧田浩司（静岡県立大学 地域・産学連携推進室）、袖山菜津子、望月一男、南条文雄（ウェルネス・フーズ産業支援センター）

内容：食品環境研究センターは、地域における健康と福祉の向上、および地域産業の推進を目指して、「食と健康」や「環境と健康」に関連した研究とともに地域の人達への教育・啓発活動などを行っている。2025年度に実施した事業の報告をすると共に、2026年度の事業計画について話し合いを行った。